

岡山藩祖 江戸初期の「三名君」

池田光政の藩政改革

講師 岡山経済同友会人材育成委員長

清水宗治直系 清水 男

第1章 岡山藩祖 池田光政の主な業績

①江戸初期の「三名君」の一人である。

他の二人は水戸藩主徳川光圀（黄門）と会津藩祖保科正之。

②江戸初期の「三大藩政改革」の1つ「岡山藩の藩政改革」を行った。

他の二藩は水戸藩と会津藩。

③「三大藩校」の1つ、現存する世界最古の庶民の学校「閑谷学校」を開学した。

他の二校は長州藩の明倫館と水戸藩の弘道館。

④三名の偉人熊沢蕃山（ばんざん）、津田永忠（ながただ）、石川成一を登用した。

それぞれ明治43年に天皇より特旨を以て熊沢は正四位、津田と石川は従四位を追賜せられた。

⑤飢饉（ききん）の時藩の蔵を全部明けるなどして一人の餓死者も出さなかった。

⑥新田開発をして岡山藩の石高を31万石から2.5倍の75万石にした。

⑦女性に教育を奨励し、岡山県が教育県となる礎を築き、多くの偉人を輩出した。

⑧岡山藩が明治維新に勤王派として活躍する礎を築いた。

⑨人民のEQ（心の知能指数）を上げた。

第2章 光政の生いたち、母鶴姫妻勝姫その母千姫に護られた人生

光政は1609年岡山城に池田輝政の孫として生まれた。

輝政は姫路備前淡路三国89万8千石を領し、世に姫路宰相百万石と称せられ全盛期には美作、徳島も輝政の娘婿等が領し一族で138万1千石を領していた。

光政は輝政の長男、池田利隆の嫡子として生まれ1615年2月に事件が起こった。

昭和6年に岡山県が岡山県通史を出版し、その内容を引用する。

〔御家騒動〕

由来備中にては極秘密にして何人も口にせざるも由々しき御家騒動があった。輝正の後家、家康の二女督姫（とくひめ）は輝正の長子利隆（としたか）の母が中川氏の出であるのを良く思わず、老女の医師と毒殺を謀っていた。

督姫は1615年2月殿中で利隆31才と自分の息子達忠継（ただつぐ）16才と忠雄14才を菓子でもてなした。利隆には毒菓子がだされていた。その時督姫の息子忠継はわざと利隆の前の菓子を急にとって食べた。督姫は驚いたがどうしようもなく自刃し、老女医師他これに関わった者全て自刃した。忠継は数日後亡くなり翌年6月には父利隆が病で亡くなり光政は当主となった。その翌年1617年光政8才の時、姫路52万石から鳥取32万石に移封になった。

この時代肥後の加藤や安芸の福島をはじめ全国の多くの藩が取り潰されてる中で、それを免がれたのは光政の母鶴姫が父の徳川四天王の1人榊原康政を通じて徳川宗家に存続を懇願したからである。当時の鳥取は世情が不安定で治めるのが難しく、石高が4割減った事により光政は大変苦勞したと思える。

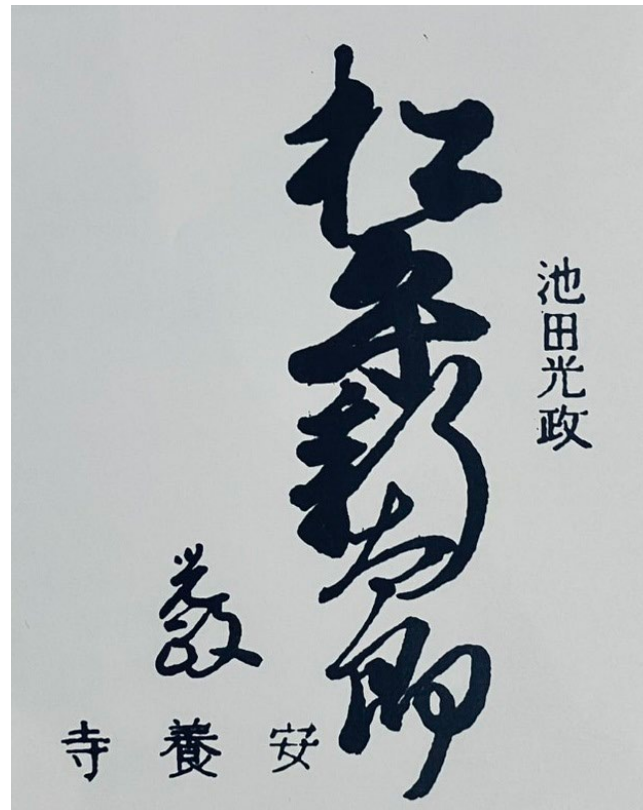
〔光政岡山へ帰る〕

1632年光政23才の時鳥取32万石から岡山31万石に移封。岡山藩初代藩主となる。光政は23才から73才まで50年間岡山の改造に励んだ。

1654年夏に大干ばつ、秋に大水害が岡山を襲い大飢饉が発生した時、藩の米蔵を全て解放し、妻勝姫の母千姫に頼み幕府から4万両を借り入れて人民の救済を行い⑤一人の餓死者も出さずに済んだ。千姫は家康の孫にあたり、豊臣秀頼の元妻でとても苦勞の多い人生を歩んでいる。又光政は神社1万14社を6百社に、寺院1千寺を4百寺に統合し、神官僧に呪われたが母や妻、妻の母に守られて天寿を全うした。そこで全国に先がけて⑦女性に、教育を奨励し、岡山県が教育県となる礎を築き、多くの偉人を輩出した。

さて、光政は署名には常に新太郎と自署して少将と書かなかった。娘にもお姫様と呼ぶとお六と呼べと御年寄役の女性をたしなめた。全ての人が同等であるという振る舞いは女性に親近感を与えたと思う。

光政花押



〔兵庫、鳥取、岡山は光政によって結ばれる〕

光政は7才で姫路城の当主となり、8才で鳥取城の当主となり、23才の時岡山城の当主となった。兵庫県、鳥取県、岡山県にはそれぞれ神戸経済同友会、鳥取経済同友会と岡山経済同友会があるが、この3つの同友会は隣県であると同時に池田光政が領主であった事から、親交、連携が進むと考えられる。

第3章 ⑨光政は人民のEQ（心の知能指数）を上げた。

EQとはIQ（知能指数）に対し、心の知能指数といわれるもので、感情をコントロールして応用できる能力を言う。

〔人国記〕

人国記に書かれている戦国時代の備前の民情によると、上下共に自分の利益を優先して万事行うので言行が一致しない。

善悪正邪にかかわらず得を求め行動し、うそを並べて手柄を一人占めにする。岡山県通史には、この状態は播磨も美作も備中も同じ様な状況で、1441年に播磨・備前・美作の守護赤松満祐による足利義教將軍の暗殺から始まり、浦上宗景による支配、宇喜田直家による下克上の支配等の為人心が乱れたと記されてある。特に直家は一度は浦上に反乱を起こし、失敗して二度と反攻しないと言いながら、力をつけて反乱を起こし浦上を追放している。又妻の父中山備中守勝政を謀殺し沼城を奪い、妻は自害している。

〔光政の教育改革〕

光政は1641年藩士の子弟の為、藩学校「花畠教場」を開校した。これは幕府の昌平校に先だつ事50年で、日本最古の藩校であり熊沢蕃山が学則を作った。

1668年には備前、児島、浅口、備中に手習所（てならいじょ）124校を作り、女性、子供、漁師にも教育の場を設けた。

1670年庶民の為に日本で最古の学校「閑谷学校」を造り、これは現存する世界最古の庶民の為の学校である。基本財産として学校林32万5千坪、敷地100町歩を保有し、いかに永久的な計画だったかがわかる。講師陣には熊沢蕃山をはじめ著名な講師を集めた。

〔日本孝子伝〕

京都の儒者藤井頼斎が1684年に書いた伝記に登場する13人の内6人は備前の人で、これにより備前考子は天下に名をはせた。光政の教育改革が結実し、人民のEQ（心の知能指数）が上がり、後に岡山県が教育県として発展する元になった。

〔岡山の偉人200選〕

歴史上の各界の岡山の偉人を200人挙げると容易にできる。これは他県ではできない事だと思う。これは岡山の女性が昔から教育度が高いので成り得たものだと思う。

第4章 1654年の大干ばつ、大水害の発生と救済

岡山藩では1654年に大干ばつの起こった後、大水害が発生し、旭川の氾濫では岡山城が浸かったほどの6メートルの洪水があり岡山地区の4千戸が被害に遭い、郡部では堤防の決潰、山崩れ、家屋の流失などの大災害に遭い大飢饉が発生した。これに対し光政は藩の米蔵を全て放出し、妻勝姫の母千姫に頼み幕府から4万両を借り入れて救済を行い一人の飢死者も出さなかった。千姫は3代将軍家光の姉で7才の時豊臣秀頼に嫁ぎ、豊臣滅亡の後には姫路城主本多忠刻に嫁ぎ、秀頼の娘奈阿姫の命を助けるなど博愛の精神に富んでいた。一人娘の勝姫の願いを家光に訴え願いを叶えた。光政は医師を各地に派遣して疾病者の治療を行なった。光政は郡奉行十人を任命して救助を行ったが、以前に奉行に次のように申し渡した記録が残っている。

「民を救う事は恩を与える事ではない。奉行の中に御恩を知らぬなんとか言うのはもっての外である。救済は国主の仕事の一つである。誠意をもって民に臨めよ、人格を尊重せよ。遂に彼等が独立して再び救済の必要がないようになるのが徹底的な救済である」

第5章 治水事業と新田開発

1582年の備中高松城水攻めの秀吉の築堤技術は、暴（あば）れ川であった旭川を鎮（しず）め岡山の城下町を造るのに用いられた。そしてその技術は干拓、治水の事業にも用いられた。

〔1654年の大干ばつ、大水害に対する治水事業〕

(1) 熊沢蕃山の建議により、岡山城の北から幅百間長さ16kmの川を造り旭川の分岐を造り氾濫を防いだ。百間川と呼ぶ。

(2) 旭川の上流沿岸に植林をして水源涵養（かんよう）をし、土砂流出を防いだ。

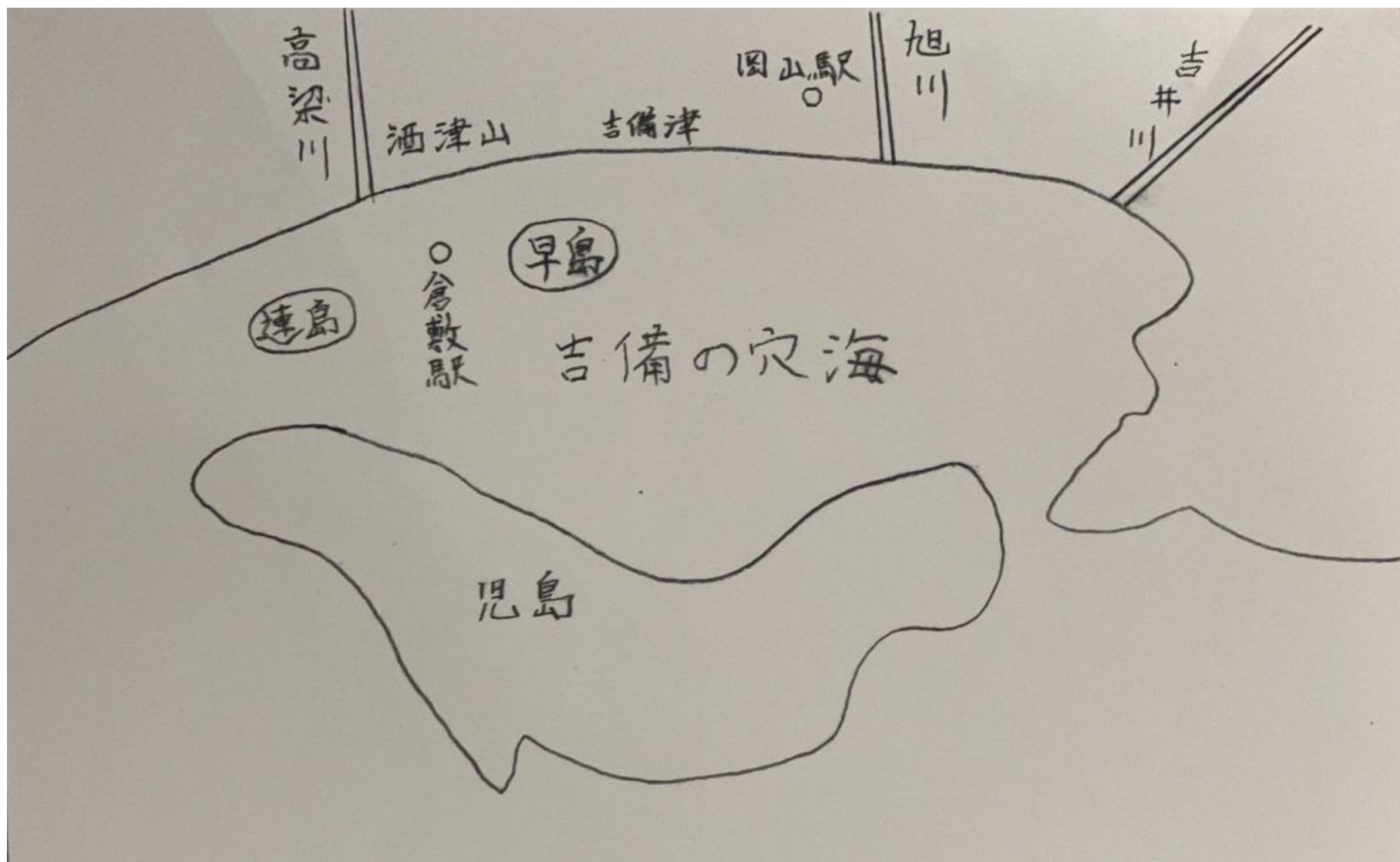
(3) 干ばつを防ぐ為用水池を500カ所造った。特に児島地区には石川成一が奉行として赴き、300カ所の用水池をつくり、灌漑（かんがい）施設を作り、開墾して海賊の根拠地であった所が裕福な農家の所となった。

(4) 光政は領内各地を開墾し、⑥新田開発をして岡山藩の石高を31万石から2.5倍の75万石にした。これにより岡山藩は裕福な藩となり、明治維新で活躍することができた。

〔吉備の穴海の干拓の経過〕

1584年高松城水攻めの築堤奉行をした宇喜田家臣千原（ちはら）久右衛門が酒津から浜村まで2kmの堤防を作り倉敷を陸続きにした。

1618年児島が本州と陸続きになった。



第6章 気候変動と食糧問題

過去2000年を見ると、約350年毎に小氷河期が訪れている事が歴史や木の年輪からわかっている。前回の小氷河期は1645年から1715年まで続き、イギリスのテムズ川が凍ったという記録があり、ヨーロッパでは食糧生産が極度に低下し、それが元で産業革命やフランス革命が起こり、海外進出のきっかけになった。日本でもその時期には全国で飢饉が続き、岡山藩では様々な改革を光政が行った。ちなみに2000年頃から小氷河期が始まる予定だったが、CO₂の排出量の増加により、現在では地球の温暖化が進んでいる。しかし、今地球は氷河期にあたり、過去45万年を見ると、10万年の氷期と1万年の間氷期をくり返している。そして今は間氷期になって1万年が経ち、いつ氷期がきてもおかしくないという説がある。この周期は、木星の影響により、地球の公転軌道が11万年毎に変わるという説による。そこで人類は温暖化だけでなく、寒冷化にも備えていなければならないと考える。

ここからは厳しい環境の中で光政が行なった、民が貧困から抜け出し豊かになる為に行った改革を述べる。

第7章 光政の様々な改革

〔⑩質素・儉約〕

光政は率先して質素、儉約を守り、簡易な生活をする実行者であった。衣は綿衣綿服で体温を調節するものにし、食はヌカ漬大根を副食とし、民間の祭礼の時はチクワ、イモ、ゴボウコケラズシなど。光政の居所は質素なつくり。質実剛健、復興気分が遺憾なく発揮されていた。領民にも質素・儉約をし貯蓄を奨励した。

〔⑪道徳と教育の調和〕

光政は岡山藩の石高を31万石から75万石にして食料問題を解決し、教育機関を充実して道徳を高め調和を図った。

〔⑫節酒令、禁酒令〕

1642年許可した酒造所のみで醸造を認め、他は禁止し、以前の半分の量しか造らさなかった。又農民には酒を売る事を禁じ、買った農民は田畑を取り上げることとした。

アメリカでは1919年に憲法修正18条として禁酒法を制定したが、光政はそれに近い事をその277年前に行ったことになる。

(⑬宗教改革、社寺淘汰)

1666年領内の神社11,130社の内601社のみを残し、各代官所に1社ずつ76社造営し、1712年に76社を1社にした。

又1,044の寺院のうち583寺を廃し461寺にした。僧侶には還俗米を給付して生活を保障した。

日本では1868年に神仏分離令が發布され廃仏棄釈運動が始まり、寺社に税金がかけられ廃寺が増加したが、光政はその約200年前に同じようなことをした。

これにより神官、僧侶の怨みを買い、呪詛（じゅそ）され殺害されそうになったが、母鶴姫、妻勝姫、その母千姫がついていたので支障なく、73才の天寿を全うした。

(⑭金融、農協、錢座)

第1社倉法 農協、銀行に近い形、薄利貸付、粃（もみ）種、肥料、米の融通を図る。

第2畝麦法（せむぎほう） 信用組合の一種で1畝（せ）歩（0.1反）に付き麦を二升ずつ出させて之を元本として種子及び肥料の貸付をする。

錢座を二日市に設けて錢を鑄造して金融を円滑にした。

光政は様々な改革をする中で批判にもさらされたが、責任を自分一人が負い、改革に当たっては反対されても一人の犠牲者も出す事は無かった。

第8章 光政の人材育成

藩士、領民、女性、子供に教育の場を与え、奉行には民を救済する時決して恩を着せてはならないと指示した。

その中で光政は④三名の偉人、熊沢蕃山、津田永忠、石川成一を登用した。

(熊沢蕃山)

1619年京都に生まれる。

15才の時光政の小姓となる。

19才の時岡山藩を去って陽明学の大家、中江藤樹に師事する。

27才の時、光政は陽明学を好んでいたもので、300石で召しかかえられる。

陽明学は「知行合一」の思想で幕府は秩序、上下関係を重要視する朱子学を重んじ、どちらも孔子の儒学の系統で、陽明学は幕末に吉田松陰、大塩平八郎、山田方谷、渋沢栄一などに信奉され、熊沢蕃山が多大の影響を与えた。

32才の時3000石に加増される。

そののち、松を半田山等に植林し、水害を防ぐ。又百間川を建議し、築く。

閑谷学校では講師を務め、著名な講師を集めた。

陽明学を中心に様々な書物を書き後に大きな影響を与えた。

73才で死去

(津田永忠)

1640年、池田家の家臣の家に生まれる。

14才の時光政の小姓となる。

1664年に評定席に列し、難かしい訴えを上手に裁断して功を上げる。

1666年より、各郡に手習所を設け村民の子弟に教える。

1773年 閑谷学校を建設する。

18才の時熊沢蕃山が岡山藩を去ってからは、その後を継ぎ、様々な改革、開墾、救済、新規事業を興し、光政の右腕となって藩政改革を推進した。特に土木工事に於いては全国に誇る遺産を多く残している。

1686年光政の子池田綱政（つなまさ）の命により後楽園を築く。日本三名園の1つで1952年には歴史的文化遺産として庭園としては初めて「特別名勝」に指定された。他は金沢の兼六園、水戸の偕楽園である。

67才で死去

(石川成一)

1607年に生まれる、後に池田光政に仕える。

1654年の大干ばつ、大水害の時児島地区も大災害に遭い、光政は成一を児島に救済郡奉行として派遣した。

成一は現地を視察してその根本的救済方法は地溝を開いて灌漑用水を溜めることであると考え10年かけて300ヵ所の用水池を作った。

1669年には夏に75日間雨が全く降らなかったが損害は無かった。児島地区は土地貧弱で、海賊の根拠地として恐れられていたが、後の昭和の初め頃には、農業に商業に醸造に機業に製塩に多方面に於ける生産地として多額納税者56名を輩出し県下一の勢力となった。

63才で死去

第9章⑧光政は岡山藩が明治維新に勤王派として活活躍する礎を築いた

〔版籍奉還の時薩長土肥に加えて岡山藩が唯一最初に版籍奉還を許された〕

徳川幕府が滅んで幕府方の大名は財政が窮し、特に姫路藩は財政破綻の状況に陥った。そこで、土地と人民を天皇に還した方が良いと考え、新政府に申し入れをした。それに対し新政府は、薩摩、長州、土佐、肥前が明治維新に功があるのでまったをかけた。その後協議して薩長土肥ともう一つ維新に功のあった岡山藩を加えて5藩が1869年にまず版籍奉還をした。岡山藩が加えてもらったのは維新における岡山藩の活躍によるものであり、その元が藩祖池田光政の陽明学への傾頭と天皇への忠誠心であった。

私は以前津田永忠や熊沢蕃山については多少知識があったが、池田光政については全く知らなかった。光政を調べるきっかけになったのは、私が先祖の清水宗治の子孫について調べていくうちに、岡山藩だけが薩長土肥と一緒に最初に版籍奉還をできたのは藩祖光政の遺訓によることが分かったからである。

ここからは幕末維新の岡山藩の活躍について述べる。

〔池田茂政の養子縁組〕

幕末に徳川斉昭の九男で徳川慶喜の弟が池田万寿子を妻として茂政と改名して当主となった。尊王攘夷の思想を持ち、光政の遺訓を継いだ。

〔志士の活動〕

当時備前に於ける主な志士は、将軍に会って大政返上を進言した牧野成憲をはじめ、伊木忠澄、日置忠尚、土倉左膳、土倉正彦、土井典膳、伊藤正直、青木篤、水野正知、江見鋭馬、成田元美、森下景端、花房端連、花房義質、新庄厚信、香川眞一、津田弘道、井上修、小原重哉、河合源太夫、荒木三介、海間静修、田口江村である。

〔岡山藩の活動〕

まず分家の鳥取池田家に応援を頼み、岡山県、兵庫県全部の藩、旗本に帰順しなければ兵を送ると言って、戦いをせず全で帰順させた。犠牲者は備中松山藩熊田恰（あたか）のみで他には一人も犠牲者がでなかった。明治元年の各藩を評して、備前藩は「抜かぬ太刀の高名」と評している記録が残っている。

帰順させた藩は、足守、庭瀬、浅尾、撫川、新見、岡田、成羽、赤穂、三日月、山崎、林田、安志、小野、三草、津山、勝山、姫路、龍野。

帰順させた旗本は妹尾、帯江、早島、成羽、倉敷、亀山領、王島領、一橋領、神戸、新町。

ただし松山藩は、送ってきた文章に藩主板倉勝静に対して逆臣と書かれていたのを不服として、交渉が長引き、松山藩は玉島にいた重臣熊田恰に自刃を申し付け、この戦いで唯一の犠牲者になった。

この戦を避ける戦法、帰順しなければ攻めるとおどして、放っておいて、そのうち先方が降伏したのは、第二次長州征伐の少し前、長州の奇兵隊が倉敷代官所を焼き打ちし、浅尾陣屋を攻略して立て籠った時、岡山藩が攻めろぞとおどして攻めなかったら次の日には長州へ逃げ返った事によると考える。そして奇兵隊が最新のライフル銃、ミニエー銃を10丁程岡山藩に届けるよう残した事が、岡山藩が第二次長州征伐に加わらず、そののちいち早く官軍東征軍に加わった原因の1つと考える。

〔岡山藩は東征軍の先鋒をつとめる〕

討幕軍は前将軍慶喜が鳥羽伏見の戦に敗れて海路江戸に走るや、官軍東征軍を組織して之を追討した。その時岡山藩は先峰を努めた。岡山藩は527名が出兵し、最後の函館での戦いまで出兵し27名の戦死者を出した。その費用を賄うだけの財力が岡山藩にはありこれも藩祖池田光政の遺徳である。